つきかげ

第　134　号
（令和２．１．１）

信　楽　寺
〒690-0052
松江市堅町88
TEL(0852)21-1589
FAX(0852)21-1590
郵便振替口座番号
01450－3－13538

おてつぎ信行奉仕団で知恩院を参拝しました。前列左から笠原貞子さん、佐々木博章さん、阪本憲治さん、多久和和夫さんが5回目の回数表彰を受けられました。後列左から木村喜美子さん、笠原純さん、当山住職、山根健義さんがお参りされました。4頁に山根さんの紀行文を掲載しております。

令和３年夏
聖徳太子1400年大祭奉修

法然上人
浄土宗
開宗850年
お念佛からはじまる幸せ
2024

新年賀会のご案内

日時　**令和2年1月19日（日）11時より**

会費　**2、500円**
11時より　おつとめ・挨拶
11時30分より余興

申込み　**1月15日まで**
同封ハガキ（63円切手を貼る）か、
電話・ファックスにて申込み下さい。
TEL２１－１５８９・FAX２１－１５９０

余興
◎ｆｉｒｅ－ｂｉｒｄによる
　歌とサックスのミニコンサート
◎住職の娘千陽さんによるミニオペラコンサート
◎お楽しみ抽選会

皆さんのお参りをお待ちしております。

謹賀新年

令和二年元旦

信楽寺住職　楽誉広平
副住職　強誉量介
総代一同

年頭にあたって

住職　楽誉（ぎょうよ）　広平

明けましておめでとうございます。

新たな年が皆様にとって希望に満ちた年となりますように心から願っております。

今年は何と言ってもオリンピックの年であります。日本人の活躍を直接この眼に焼き付けておきたい。会場に行き生で体感する訳ではありませんが、一生に1度となるであろう日本でのオリンピックを楽しみにしております。ただし夏休み中とはいえ、何故一番暑い時期に、お盆を前の忙しい時期にしなければいけないのか疑問であります。オリンピックが単に選手の熱戦を応援するものだけではなく、商業的、政治的な匂いが漂うことに、いささかのきな臭さを感じ純粋に楽しみとする事が出来ないのが残念であります。

そしてもう一つ大きな行事として、国宝である総本山知恩院の御影堂（みえどう）（法然上人の御像を安置する）が10年の歳月をかけて、ようやく完成し、お参りが出来る年でもあります。

当山としても、松江組として他のお寺のお檀家さんと合同で9月17・18日にお参り致します。どうぞこの仏縁も一生に1度会えるか会えないかの尊いご縁であります。ご予定に組み入れて戴き、一人でも多くの皆様にお出掛け戴きたいと思っております。

人間目標がある内はいいのですが、それが終わった後、「燃え尽き症候群」ではないですが、希望や夢が大きければ大きいほど、その後のダメージが大きいのではないでしょうか。それを考えるとオリンピックを終えた後の我々の生活がどう変わっていくのか不安になります。

令和3年聖徳太子1400年大祭奉修について

そんなオリンピック後の不安を払拭する為にも来年予定をしております聖徳太子1400年大祭の勝縁にお会い戴き、是非とも太子様のご利益にお預かり戴きたいと思っております。

当山聖徳太子様は毎年7月にお祭りをさせて頂いておりますが、来年は特に50年に一回のご開帳の年に当たり、法要はもちろんのこと、それに伴って聖徳太子堂の整備、関連のイベント的な事が出来ればと考えております。

用意の時間も一年半しか残されておりませんが、一生に1度のご縁を逃されぬ様に皆様のご理解ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

50年に1度のご開帳である
秘仏の聖徳太子像

令和2年会費（維持費）納入のお願い

例年本寺報「つきかげ」と一緒に同封をしてお願いをさせてもらっております年会費のお願いの用紙と払込取扱票を今回も同封しております。

最近富に手数料が高くなり、ATMを使わず窓口で払い込みをすると特に手数料が高く取られます。

その上今までサービスとして無料であった振替受払通知票（皆様から幾ら払込があったのか分かる用紙）にまで4月1日から料金が掛かる事となり、お寺としても4月1日からはパソコンによる通知票のデータを保存して納入状況を確認するようにしたいと考えております。

そこで今までは6月までに納入をお願いしておりましたが、令和2年より3月31日までを締切とさせてもらい、なるべく短期間の内にまとめての納入をお願いしたいと思います。宜しくお願い申し上げます。

中島実氏の往生を願って

いま原稿を書きながら改めて中島　実氏が亡くなられた事を実感し、今更ながら信楽寺の行く末を心配してご指導、アドバイスを頂戴した事に、感謝に堪えない気持ちと、大切な方が亡くなった喪失感に苛まれております。

丁度一年前の「つきかげ」に「生かされて生きる」と題して投稿下さいました。

昭和49年長女を一歳7ヶ月の時に、不慮の事故で亡くされ、失意の中先代住職の説教で落ち着きを取り戻すことができたとお書き下さいました。

それからは先代住職のお盆の棚経にドライバーとして、率先してご尽力を戴いたり、毎月の朝の墓地清掃には欠かさずご夫婦でお参りになられ、娘さんのお墓はもちろんのこと、近隣一帯をいつもきれいに草一本も生えないぐらいに徹底して掃除下さいました。

また平成20年私の晋山式（住職になる式）には実行委員の一人として、特に改修工事、業者の入札に係わる仕事など、何一つ分からない私を助けて下さいました。

松江市民大学でも卓越した編集能力を発揮され、機関誌を多く発行されていました。

そんな中島さんは私が先代から引き継ぎ編集をしていた現「つきかげ」を見て多くの事をアドバイスして下さいました。写真の配置はもちろんのこと、写真の向き、文字の大きさに到るまで、とにかく読み手の気持ちになって編集をすることを学びました。

文章についても住職として品格を欠くことのない、お檀家さんがどう読まれるのか、いつも気にする必要のあることを教えてもらったように思います。

私自身、年に2回作成する「つきかげ」が段々義務的になり、なんとか作成し締切までに間に合えばいいと考えていた所に、多くの刺激を与えて下さいました。

また、お寺の年間行事には都合の付き難い時もあっただろうに、いつでもお参り下さり、記録としての写真を撮っては、「つきかげ」に「写真で振り返る年中行事」として編集して戴きました。

「何回見直しても過ぎる事はない」と何回見直したつもりでも、出来上がりには何時も一ヶ所二ヶ所訂正すべき箇所があり、編集の難しさを基本から厳しく教えてもらいました。まだまだ、教えてもらわなければならない事が一杯あったのに、残念でなりません。

お亡くなりになられる2ヶ月前に随分とお痩せになられ、もう会話もままならないなか、封筒に「私の思い」と綴られた文章を手渡して下さいました。

中には「人生の終盤を迎え、私にとって信楽寺さんの末永い繁栄を願い、今の思いを綴らせて戴きました。これから益々お世話になる私、信楽寺さんが今まで以上に人々から愛され、益々地域社会でご活躍を続けられることを祈念して、お寺さんへの思いを提言させて頂きたいとおもいます。」と書かれた後には、信楽寺の年間行事に関する要望を細かく、辛辣な程に厳しい事も書かれてあり、今後私の住職人生を歩んでいく課題を多く残して下さいました。

居られなくなり、今まで甘えてきた事を痛感し、反省しております。

もう娘様にはお会いすることができましたか？先代もようやく3回忌を終えましたが、相変わらず元気で居りましたでしょうか。どうぞ極楽で再会された皆さんと積もる話をして頂き、噂話をしながらこの世の我々の姿を見守って頂きたいと思います。

信楽寺の為に中島さんが残して下さった宿題を一つでも多く叶えたいと思っています。

この一年
（心洗われたおてつぎ信行道場）

山根　健義

明けましておめでとうございます。

本年が皆様にとって佳い年となりますことを祈念申し上げます。

昨年は9月の台風15号、10月の19号それに続く大雨は広い地域に渡り甚大な被害をもたらし、被災地域の皆様にはお見舞いを申し上げ、亡くなられた方々の冥福をお祈りし、お悔やみを申し上げると共に、一日も早い復旧、復興を祈るばかりです。

私の昨年の一番の出来事は、妻の一周忌法要を行ったことです。一昨年の6月に妻を亡くし、日々戸惑いながらも一人暮らしで一年経ちました。方丈様の心のこもった法要で安心しました。

妻が存生中は、春は花を見に、秋は紅葉見物、その他折々に二人であちらこちら、日帰り、あるいは泊まりでドライブをしましたが……。

昨年の遠出は唯一、おてつぎ信行奉仕団の一員として、総本山知恩院へお参りをしたことです。

国宝御影堂の回廊をぞうきんがけ

9月17日早暁、雨模様の中、松江組30名（信楽寺から7名）と各寺の方丈様4名の総勢34名が乗車したバスは、ガイド嬢の楽しい話を聴きながら、あるいはうとうとしながら（バク睡の方も……）京都目指して、途中2回の休憩もとりながら、予定時間に知恩院へ到着。しばし休息後、同時ご登嶺の鳥取・滋賀の方々と共に結団式に臨み、これから始まるのだと気持ちを新たにしました。

知恩院の中を移動する際は、現在法務研修生として知恩院に在籍する、量介副住職と共に合掌しながら引率してもらい、「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えながら行道をし、これだけでも心安らかになりました。

清掃奉仕は、10年の歳月を要してほぼ完成した御影堂（知恩院の中で一番中心となる、法然上人像を安置する御堂）廊下の拭き掃除でした。広い回廊の雑巾がけは汗が出ましたが、爽快な気分を味わせて戴きました。

2日目18日は、早朝法然上人御堂にて勤行、ご回向、法話を聞きました。

ご回向で山根家先祖代々に続いて、妻の戒名、俗名が読み上げられた時は自然にこみ上げるものがあり、焼香台に向かった私は、涙が止まらずしばし茫然……。その後の法話は上の空でした。

知恩院での充実した日程も朝食後の解団式で終了。俗世間に舞い戻り、加茂御祖神社（下鴨神社）参拝。十二単衣の着付けを行う過程を見物し、着付け後王朝の優雅な舞を拝観しました。

来年は御影堂落慶法要の年、おてつぎ奉仕の傍ら、御影堂落慶のお祝いに大勢の皆さんと共にお参りしたいものです。

皆様良い年をお迎え下さい。

筆者は後列の一番右

母満子を偲んで／改元令和を振り返って

阪本　憲治

他力本願が大切、自力は元気なときだけ、自力だけでは人生は全うできない、人生の最初と最後は自力皆無、半ばでも自力は微力、他力は無数万倍力、一人は万人のために万人は一人のために　周りの皆様のおかげです。
人は生かされている。自分のためだけに生きるな、人は誰かのために生きるのだ。いつまでもあると思うな、親と金、ボーっと生きてんじゃねーよ！
以上は自分への戒めの言葉です。

平成から令和へ／外出好きの母は元気でした。

4月28日(日)　午前次男帰省、午後千葉より帰省の父の従兄弟来訪。母、妻、私の4人でお茶飲み歓談。次男は友人と外出。
5月1日(水)　今日から令和元年、長男帰省。
5月2日(木)　午前4人でお寺墓参り、檀家さん家族及び住職に会い挨拶その後宍道湖畔のレストランで昼食。
6月19日(水)　数日前より血尿が出るとのことで小林医院へ、私が出勤の為妻が連れて行く。泌尿器科の専門病院でもらう方が良いとのことで嶋本医院の紹介状を受ける。
6月22日(土)　午前嶋本医院へ泌尿器科受診、担当医師／日赤から応援診察、CT撮影後検尿。膀胱の滞留物除去、膀胱に腫瘍の疑い。
7月3日(水)　九州の妹、夜行バスで来る。午前お寺墓参り経由、いつものレストランで昼食／母との最後の外食。
7月5日(金)　昨日の腰痛でリハビリデイサービス休む、トイレ自力で行ける。
7月7日(日)　お寺お勤め朝掃除、母の写経を提出。
7月11日(木)　桑原整形へ、腰痛がひどくなり痛み止めの薬もらい及び腰部レントゲン撮影。恥骨及び座骨の骨折が見られる。玉造病院へ紹介状受け。
7月12日(金)　リハビリデイサービスへ、これが母の最後のリハビリデイサービス。
7月19日(金)　桑原整形へ、妻も同行、腰痛が治まらず背中から腰に注射2カ所。この数日前から自力でトイレに行けず介助要、台所にも出られず食事ベッドまで運ぶ。
2ヶ月ほどの入院でした／母は退院して家に帰るつもりでした。
7月22日(月)　松江日赤に入院、付き添いが必要とのことでこの日、九州から駆けつけてくれた妹に付き添いで泊まってもらう。7月28日(日)まで一日交代で24時間の付き添い。
8月3日(土)　お寺朝掃除、今夜も妹が付き添い泊まり。夜水郷祭花火がよく見える病室だが母は見たくないと言って寝てしまう。
8月4日(日)　お寺施餓鬼法要、母は病室でお経、御詠歌を唱える。
8月29日(木)　日赤から記念病院に転院、朝、妻と同行。
8月30日(金)　面会時間の関係で本日より面会は昼食時と夕食時にする。
9月2日(月)　妹九州から再度来る、夕方到着後病院に見舞い、転院前より体調優れず。
9月4日(水)　妻、妹の3人で担当医師と面談、妹午後の便で九州に帰宅。
9月6日(金)　病棟2階から3階へ移動、10時前妻と病院へ、やや体調取り戻すも夜夕食採らず。
9月7日(土)　夕食少し食べるも意識不調。
9月17日(火)　京都へおてつぎ奉仕団で知恩院参拝。
9月18日(水)　京都から帰りの車中に病院から元気がないと連絡受け、帰着後妻と病院へ、午後7時半頃担当看護師と話す、担当医師不在の為翌朝面談することに。
9月19日(木)　午前妻と病院へ、担当医師と面談。夕方、妹九州より来る。6時半頃3人で病院へ、意識弱いが呼べば返事はある。
9月20日(金)　朝9時半頃病院からすぐ来るようにと電話、3人で行くと既に意識なく危篤状態。11時32分　母満子　93歳と11ヶ月にて永眠。この日から通夜葬儀の準備、多くの皆様に大変お世話になりました。まさに他力本願です。

通夜9月22日、葬儀9月23日とも、お蔭様で無事済ますことができました。誠にありがとうございました。　合掌

H28年筆者父の7回忌法事、
写真の横に写る母（前列中央）

写真で振り返る　令和元年 後半行事

盆前大掃除・寺報〝つきかげ〟の発送のお手伝い　7月13日

朝9時より有志の方に大勢集まって戴き行いました。名前を確認しながらの発送作業、また、本堂・庫裡・位牌堂・仏具の掃除までして戴きました。

お陰さまでお盆に清々しい気持ちでお参りが出来、皆さんのご先祖様も喜ばれたにちがいありません。

お盆前信楽寺墓地・松尾町墓地　一斉清掃　8月3日

暑い中皆さん一生懸命に作業して下さいました。

のびていた雑草をとり、きれいになった墓地にご先祖様をお迎えすることが出来ました。

盆施餓鬼法要　8月4日

初盆を迎えるご家庭を初め多くのお檀家さんにお参りを戴き、盆施餓鬼法要をつとめました。

当日は副住職も勤めましたが、本山の仕事があり、お盆の最中は2日しか帰れませんでした。今まで2人で棚経を廻っていたのが、急遽私一人となり、3日朝掃除、施餓鬼法要の後に、希望者のみ本堂で棚経を勤めさせて戴きました。

出雲教区詠唱大会　10月10日

秋晴れのなか、出雲市塩冶町神門寺様に於いて出雲教区詠唱大会が行われました。

当山からは住職を含め5人で参加致しました。

朝10時に出発、神門寺近くのおそば屋さんでお昼を済まし、緊張でお腹がふくれる間もなく大会会場へ。神門寺は出雲の名刹であり、弘法大師ゆかりの「いろは寺」と称される如くに、元々は真言宗の歴史あるお寺であります。その大きな本堂で「秋のご詠歌」「知恩院和讃」の2曲をお唱え出来ましたことは大変に感慨深いものがありました。研修を終えた後、他所のお寺から来られた、ご詠歌の講員の皆様と懇親を深めさせて戴き、お唱えする声以上に大きな声で会話が弾みましたことは言うまでもありません。

どうぞ皆さんもご一緒にお仲間になられませんか。

十夜法要　11月3日

「イケメンの説教師説く
十夜寺」
十時和子

など数多くの俳句に詠まれる十夜法要は秋の季語にもなるぐらい全国の浄土宗で勤められます。

連休中にも係わらず、沢山の皆さんにお参り戴きました。

益田・妙雲寺本田上人は若きイケメンの説教師様で説得力のあるお話をして戴きました。

今年最後の墓地清掃・浄梵会（じょうぼんえ）　12月1日

朝7時からおつとめをして、続いて浄梵会（じょうぼんえ）をいたしました。
浄梵会とは古いお位牌、お守り、お札の他、長く可愛がってこられた人形などを沢山持ちよられ、おつとめの後にお梵（た）き上げ致しました。

県外からのお参りの方々

この他にもお参り戴いた方がありますが、紙面の構成上止むを得ず省略させて戴きました。
ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

11月17日中島実さん満中陰法要にお参りされる。

9月5日神戸より伊藤澄子さん
満中陰納骨にお参りされる。

11月16日有馬家親族の皆さん、紀子さん納骨に各地より集まられる。

11月4日中島稔さん13回忌法要に
遠方よりお参りされる。

10月7日富田花子さん7回忌法要に娘様
それぞれ、ご夫婦でお参りされる。

「いただきます」と「ごちそうさま」

渡部　潤一

10月15日に、母が88歳で永眠した。生前は80歳を超えてからもダンス、英会話、茶道、海外旅行などを楽しみ、島根大学の聴講生もしていた。（おそらく最年長）

現役の時には公務員として退職まで勤め上げ、忙しい日々を過ごしていたが、退職後は自分の思うことを十分に楽しんできたと思う。私も単に隠居するのでなく、母のように人生最後まで自分の人生を楽しみたい。

10月22日に、四十九日と納骨を終えた。その時の住職のお説教の中で「いただきます」と「ごちそうさま」のお話をいただいた。次のような内容のお話であった。

「いただきます」「ごちそうさま」ともに仏教の教えの中からのものである。仏教は殺生を禁じているが、我々人間は本能として、生き物の命をいただかなければ生きていけない。牛や豚などの動物はもちろん、野菜や果物などの植物にも命がある。それら全ての生き物に感謝をこめて「（命を）いただきます」ということである。

筆者のお母様は一番左側

私は現在、インドの日本人学校で教師として働いている。赴任して1年半になるが、インドの方に食事に招いていただくこともしばしばある。そこで「いただきます」と言ってから食事をいただくと、「それはどういう意味？」と聞かれる。前述の、我々は生き物の命をいただいて生きていることに感謝して食べていること、日本人の誰もが宗教に関係なくいつでもどこでも「いただきます」を言っていることをインドの人に話すと、大変驚かれる。そして、「素晴らしいことですね」と言われる。インドはヒンズー教徒が多く、ベジタリアンも多いが、「いただきます」は宗派を超えた素晴らしい言葉だと思う。

また、「ごちそうさま」についても住職は次のように話された。「ごちそうさま」は、いただいた食べ物の後ろにある物（作ってくださった方々など）への感謝の気持ちであるという。馳走（ちそう）とは私が食事をする為に、どれだけ沢山の人が、駆け回って準備をしてくれたことだろう。出来合いのものを食べるときでも、それを作った方のみならず、例えば、野菜が入っていたらその野菜を作られた方のことまでも思いをよせて感謝するということである。この「ごちそうさま」の意味についても、次回からインドの方に説明しようと思う。

これら感謝の気持ちは、食べ物のみならず全てに通じると思う。母もたくさんの方々に支えられて生きてきた。その方々に感謝。そして私も忙しい中子ども4人を立派に育ててくれた母に感謝である。

（現在はインド・チェンナイ在住）

ハナミズキに思いを馳せて

須山亜佐子

平成30年9月30日。

最愛の長男裕葵（ひろき）を〝心室細動〟という突然の病気で亡くしました。

31歳の若さで2歳6ヶ月のまだ幼い我が子を残して5日間の入院生活を足早に通り過ぎ静かに眠りにつきました。8月末に家族4人で松江に帰省し、ガン治療中の私に孫との楽しい時間を過ごさせてくれました。

倒れてからの5日間、沢山の方々にお世話になり、そして沢山の涙を私は流しました。折れそうになる心を次男が必死で支えてくれました。

長男そっくりな2歳の孫が小さな手で私の流れる涙を拭いてくれ、6ヶ月の孫が笑顔で手足をバタバタさせ私を見つめる姿に〝この可愛い孫達をおいて息子がいなくなるなんて絶対にない〟と揺れる心を必死で奮い立たせ、限られた面会時間にはいつも期待を持って励ましていました。

台風が大阪を直撃した日に静かに…とても静かに安らかに眠りにつきました。

今年の私の誕生日にサプライズがありました。

亡くなった長男から紫色の胡蝶蘭が届きました。メッセージカードには自筆で「お母さんおめでとう!!裕葵より」と。花言葉は「幸せが舞い込んでくる・あなたを忘れない」でした。

箱を開けると息子の文字が目に入り、夢を見ているのか?現実なのか?段々と胸がいっぱいになりました。最後に話した日は長男が亡くなる10日前、私のガンの結果を報告した日でもあります。

その日に花を予約してくれた様です。

いつも優しくて頼りになる自慢の息子でした。

遠い土地から母を思って事前に予約注文をしてくれた息子に改めて胸がいっぱいになりました。

回りの人にもいつも笑顔で優しく接していたのは、葬儀の後も、自宅の線香立てに来て下さる人数の多さでもよく分かります。

沢山の人に愛され、慕われ、そしてかけがえのない大切な大切な息子でした。

いつも号泣している私をきっと傍らで心配しているでしょうネ。

11月7日。

長男の誕生日に次男宗樹は入籍します。二人の息子達が今もこれからも私の全てです。いつも優しく笑いかけてくる遺影に少しでも元気な姿を見せたくて、これからもお寺の行事、おつとめに参加したいと思っております。

長男裕葵さんの結婚式に一緒に写る筆者

新たに駐車場整備しました

以前より本堂裏に空き地があり、いちじくを植えたり、畑として使っておりましたが、その管理が出来難い状況となり、何か良い方法は無いものかと思っておりました。

そこでこの度空き地に続く二軒分の建物を取得し、建物を取り壊して、お檀家さん専用の駐車場として整備致しました。

今まで大きな法要の時にはご近所にお願いをして駐車場を借りておりましたが、これからは気兼ねなく車でお参り下さい。

普段は締め切っていますが、天神川沿いに信楽寺（灘側）駐車場の看板を出しております。

約185坪の土地を整備し、軽自動車用の駐車場も含め25台の駐車スペースを楽にかつ安全にして戴けます。どうぞご活用下さい。

追善寄付

為	夫追善	金一封	施主　来海　富子
為	母追善	金一封	施主　森　博見
為	本人生前戒名授与	金一封	施主　荒川　佳子
為	夫追善	金一封	施主　太田　弘子
為	母追善	金一封	施主　小倉　俊雄
為	母追善	金一封	施主　安達　治美
為	父追善	金一封	施主　中島　淳治
為	母追善	金一封	施主　渡部　潤一
為	父追善	金一封	施主　井川　歩
為	妻追善	金一封	施主　小島　孝
為	妻追善	金一封	施主　有馬　道夫
為	父追善	金一封	施主　木村　明正

令和二年　年回表

一周忌	令和元年 平成三十一年	(二〇一九)亡
三回忌	平成三十年	(二〇一八)亡
七回忌	平成二十六年	(二〇一四)亡
十三回忌	平成二十年	(二〇〇八)亡
十七回忌	平成十六年	(二〇〇四)亡
二十五回忌	平成八年	(一九九六)亡
三十三回忌	昭和六十三年	(一九八八)亡
五十回忌	昭和四十六年	(一九七一)亡
百回忌	大正十年	(一九二一)亡
百五十回忌	明治四年	(一八七一)亡
二百回忌	文政四年	(一八二一)亡
二百五十回忌	明和八年	(一七七一)亡
三百回忌	享保六年	(一七二一)亡
三百五十回忌	寛文十一年	(一六七一)亡

令和２年 行事予定

行　事	期　日	時　間	場　所	備　考
新年会	1月19日(日)	午前11時	当山本堂	本つきかげ表紙に案内を掲載
涅槃会（ねはんえ）	2月中		当山本堂	2月15日はお釈迦様がご入滅なさいました涅槃の日です。２月一杯本堂に涅槃図をおまつりします。お参り下さい。
令和2年初めての早朝墓地清掃	3月15日(日)	午前7時おつとめ 午前7時半から清掃	当山本堂	まだ寒いとは思いますが、いつものように芋がゆを用意して皆さんの参加をお持ちしております。
春彼岸法要	3月20日(金) 春分の日	午後1時半より	当山本堂	皆さんと一緒にお念仏をお称えします。いつもお手伝い戴きます、西尾町常念寺浅田舜雄上人に法話をお願いしております。
聖徳太子祭り	7月22日(水) ～25日(土)		聖徳太子堂	22日は午後1時半より17条憲法の写経を太子堂で行います。参加費無料どうぞ皆様お参り下さい。
聖徳太子祭おつとめ	7月24日(金)	午後6時半	聖徳太子堂	
棚経	8月1日(土) ～15日(土)			皆さんのお宅にお参り致します。次号にてお参りの順番をご案内申し上げます。
墓地一斉清掃	8月2日(日)	午前6時おつとめ 午前6時半墓地清掃	信楽寺墓地 松尾町墓地	次号つきかげにてご案内申し上げます。ご確認下さい。
盆施餓鬼法要	8月4日(火)	午前10時	当山本堂	初盆を迎える仏様を皆さんでご回向致します。
地蔵盆おつとめ	8月23日(日) ・24日(月)		松尾町地蔵尊 竪町灘側地蔵尊	
おてつぎ信行奉仕団（本山参拝）	9月17日(木) ～18日(金)	詳細は改めて案内しています。	総本山 知恩院	国宝である知恩院御影堂が10年の歳月を掛け完成致しました。そのお祝いも兼ね今年は大々的に参拝に行きたいと思います。京都亀岡湯の花温泉に泊まり、鳴門のうずしおを観光します。皆さんのたくさんの参加お待ちして下ります。
秋彼岸供養・永代供養法要	9月22日(火)	午後1時半	当山本堂	おつとめの後、住職の法話とクラリネットのアンサンブル演奏を予定しています。
出雲教区詠唱大会	10月16日(金)	午後1時半	松江・ 東林寺	年に1度の詠唱の大会です。現在講員の人数は少ないですが、いつでも入会お待ちしております。
出雲教区檀信徒大会	10月22日(木)	午後より	出雲市 大社町 「大社文化プレイスうらら館」	総本山知恩院おてつぎ運動の併修行事として、講演とクラリネットのアンサンブル演奏、メインゲストとしてPaix（ぺぺ）のお2人に歌とお話をしてもらいます。Paix（ぺぺ）は日本の女性デュオで、バンド名の意味は、フランス語で「平和」。刑務所などの慰問を精力的に行い、「受刑者のアイドル」の愛称で呼ばれています。当日は松江駅から大型バスをチャーターする予定です。
十夜法要	11月3日(火) 文化の日	午前10時より	当山本堂	後日、塔婆の申込みを往復ハガキにて、直接ご案内致します。
今年最後の墓地清掃・浄焚会（じょうぼんえ）	12月6日(日)	午前7時	本堂正面	浄焚会とは、捨てるに捨てられず困っているお守り・お札・お仏壇の道具類の魂を抜いて供養するおつとめです。お気軽にご相談下さい。

基本的にどの行事にもお参り頂きたく思っております。どうぞご予定にお組み入れ下さい。

定例行事ご案内

＊御詠歌の練習＊
毎月第1・第3土曜日
午後1時半より
随時新会員募集中

＊墓地清掃＊
毎月第1日曜日早朝
（1・2月はお休みします。今年初めての掃除は3月15日(日)です）

＊つきかげ会＊
毎月第2日曜日
午後1時半より

いずれの会も随時参加・見学歓迎しております。
また、月によって日時・時間が多少変更する事がありますので、
本堂前掲示板にてご確認下さい。